

課長。

○浅野敏明まち・住まい整備課長 お答え申し上げます。

このたびの補助金交付規程によりますと、道路につきましては市道認定基準に適合した道路というふうに位置づけております。そうした場合の築造費から割り出した舗装費が60メートルで400万円というふうに算出したところでございます。以上です。

○佐々木謙二委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 わかりました。6メートルの幅で60メートルをすれば400万円かかるであろうと、おおよその基準を照らし合わせたということでもありますので、できるだけこういう活用ができる住宅地なり市民の定住が進めばいいなというふうに思いつつ、この予算については、私は賛否を問われてるわけなんですけど、その予算はどういうふうに市民の方さ、有効に使われるのかわかるけど、これはさっき市長からもあったように、業界の方も含めての宅地を造成してもらうための支援というふうにお聞きしたわけですが、市民の方から見ると、建て主にどういう還元ができるのかというのは非常に難しいことかなというふうに思うんですけども、最後にその辺だけお聞きして質問を終わりたいと思います。よろしくお願ひします。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 その土地を購入された個人、市民の方がどれだけメリットあるかということですか。

まず簡単に時間を考えて言わなきゃいけないんですけど、先ほどから申し上げますように、市道に認定を受けて寄附採納するというのは、実は不動産の開発業者は嫌うところもあるんです。というのは単価が高いです。400万円も舗装にかけないです、普通は。多分その3分の1ぐらいなんです。私もそういう業界で仕事をしたことがありますので、ただし、市道に寄附

採納しないと、こういう雪国では除雪してもらえませんが、そうしますと、除雪をしない市道のうちを買うというのは非常にリスクがある。ですから土地は売れないですね。

そういうことから、優良な住宅地を供給していかないと市民が困る、行く行くは我々行政のほうのいろんな負担がふえてくるということでありまして、ですから仕込みの段階で業者さんも、それは業なんですけども、結果として行政側も住宅が建つわけですから、市民がふえるという意味で、買う市民の方も開発業者も、そして行政側もメリットがあるというふうに思っております。

○佐々木謙二委員長 5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 いろいろ課題等を感じますけれども、予算を考えますと市民の方に少しでもメリットのあるような事業運営ができることをご期待を申し上げまして、質問を終了します。ありがとうございました。

+

## 渋谷佐輔委員の総括質疑

○佐々木謙二委員長 次に、順位4番、議席番号12番、渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 先ほど町田委員からもこの日本列島、随分ことしは災害が多いということでございます。私もそのように認識しております。

過般、台風12号によって紀伊半島、大変な甚大な被害を受けられました。昨年11月、私たち盟政会も和歌山県新宮市を訪れ、研修させていただきました。それにつきまして、余りにも甚大な被害と、その心中穏やかならず、安否を含めたお見舞いを新宮市議会事務局のほうへ差し上げました。昨日、新宮市議会事務局、赤松勇人さんのほうから、このような返事がございま

した。「このたびは台風12号による当地の災害に際しましてお心遣い、心より感謝しています。いまだ通常業務ができる見込みは立っておりませんが、市民みんなが力を合わせて努力しております。取り急ぎ、お礼かたがたご報告申し上げます」という文面でございます。一日も早い復旧、復興を祈らずにはられません。蛇足ですが、つけ加えさせていただきます。

まず最初に、ご理解をお願いしたいことですが、通告書では延長保育の実施についてのみ、断片的な表記としておりますが、喫緊の課題でもあります。将来に向けての子育て支援の施策ということで、関連する広範な質問をあわせてさせていただきますことをご容赦願いたいと思います。

あらかじめ質問の内容について整理させていただきますが、1つは児童センター利用者の減少傾向に対し、認可保育所では待機児童まで出ているという状況をどのように受けとめているのか。2つ目は、今回の延長保育に向けた条例改正案の真の目的は何か。小項目として1つは保育計画に示された指定管理者制度導入を待たずに対応することになった理由。小項目2つ目、園児バスの送迎時間と保護者からの保育時間についての不満はないのか。小項目3つ目、なぜ9月定例会に延長保育を実施するための条例改正案を上程しなければならなかったのか。大きな項目3つ目、今後のよりよい児童センターの運営について。4つ目、2、3歳児保育の需要も多いことについて。5つ目、致芳児童センターが指定管理者制度を導入されたが、その反響について。最後に6つ目、幼保一元化政策の推移をどう見ているのかであります。

まず1つ目、1番目の項目についてであります。22年度成果報告書によると、民間立保育所の入所定員376人に対して入所児童は404人、待機児童2名となっております。児童センターの場合、定員580人に対して入所児童は258人と

なっております。さらに、平成17年と平成23年で利用児童者数は100名程度の減少にありますが、児童センターの利用者が減少していながらも、認可保育所では待機児童が発生していることはなぜかという現状をどのように市長は受けとめておられるのか伺いたいと思います。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 児童センターの利用児童が減少しているということについては以前にもお話ししたことありますが、リーマンショック以降、どうしても保護者の皆さんが長時間に勤務をしなければいけない状況が生じてきたんだというふうに思っています。したがって、結果として延長保育を実施できない児童センターについては、なかなか利用しにくくなったということで、民間の認可保育園あるいは無認可保育園に預けるということがふえたんだというふうに思っております。

結果として、年度当初から認可保育園、無認可保育園に入園するわけですので、後半になりますと保育園ではもう定員いっぱいということと待機児童が出てくると。保育園の場合ですと当然3歳児未満あるいはゼロ歳児から受けるわけでございますので、そういった中で待機児童がふえるという非常に今、憂慮すべき状況になってると理解しています。

○佐々木謙二委員長 12番、渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 それでは、ゼロ歳児から3歳児の乳幼児の保育需要が大幅に伸びているというこの現状について、市長のご見解を伺いたいと思います。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 児童センターについては3歳児からということですので、2歳児、もちろんゼロ歳児も受けることができないと。で認可保育園や無認可保育園に預けられるわけなんです、その実態は、繰り返しになりますけれども、出産して、本来であれば1年とか2年、自分で育

てて育休を使う、またはおじいちゃん、おばあちゃんとか預かっただけの人がいればお願いしたいわけですが、そういう状況がなかなかつくりえない家庭の保護者がふえたんだろうと。そして、職場のほうも、育休などをとってしまったら、もうあしたから来なくていいと、戻ろうと思ったら席がないというのが実態だそうであります。それは保護者の方からの声として複数、そういった実態をお聞きしております。それだけ民間企業も余裕がなくなったということだと思っております。

○佐々木謙二委員長 12番、渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 施設の必要性、ニーズの多いということは私と同じ認識かと思えます。

次に、2つ目の今回の延長保育に向けた条例改正の真の目的は何かのことでありますが、私たちの世代では家族で子育てをするという状態でしたが、時代の変遷とともに就業形態の変化、雇用環境の変化、そして家族構成の変化等々によって、仕事と子育てが両立できる保育環境の整備という観点から今般、延長保育の実施に踏み切ろうとしている方向性はうかがい知ることができます。

過般行われました2011年8月10日現在のアンケート結果が手元にあります。それによりまずと、保育時間について、これは致芳児童センター、もう指定管理者になっておるわけですので、致芳を除き、延長保育をしてほしいというのは47%、今のままでよい、45%、わからない、8%。それから延長保育について、延長保育をしている致芳の在園児、延長保育をしてほしい全体の未就園児。これを見ますと、24%の方が延長保育をしてほしい。延長保育はなくてもよいという人が7%、制度としては必要だと思うが利用しない、これはいろんな事情があるかと思えますが、63%、わからない、5%。それからもう1点、延長保育について、延長保育を利用する場合、どの時間帯を利用しますか。朝

の7時半から8時半だけ、4%、夕方1時間、5時から6時まで、24%、夕方2時間、5時から7時まで、10%、朝と夕方、朝1時間、夕方1時間、これは38%、朝と夕方2時間、朝1時間、夕方2時間、これが24%、このように非常に延長保育に期待するアンケート結果があるわけでございます。

このように子育て世代の方から、児童センターは開館時間が短く、勤めの都合で利用できない、改善が欲しい等々、いろんな要望を伺っており、今回改善されることは好ましいことではあるが、保育計画に示されている指定管理者制度導入を待たずに対応することになった理由は何でしょうか、お伺いします。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 長井市の保育計画につきまして、実はリーマンショックの前に策定したものでございます。そんなことから、リーマンショック以降、正直なところ認識が甘かったんだと思いますが、待機児童がこれぐらいふえるということ、また保育園を望む保護者の方が多くなって、中央地区以外の児童センターの利用者が、園児が極端に減ってくるということは想定しておりませんでした。

そんなことから、実態として確かに保育計画には指定管理者というのは伊佐沢を来年、その後、25年、26年あたりで豊田、平野ということできずと計画しておりましたが、それを早めなければならぬような状況になったと、また保護者の意識も変わったのだということから今回、指定管理者をほかの地域になったときに、じゃあ延長保育するということではなくて、全体をもう児童センターの開館時間を、利用時間を見直さなきゃいけないというふうに考えが至ったところでございます。

○佐々木謙二委員長 12番、渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 利用者のニーズにこたえたということに理解させていただきます。

次に、園児バスとの関連であります。先ほどのアンケート表から、バス利用についてのアンケートもごさいます。1つは、負担が大きくなってもバスを利用したい、25%、多少の負担ならバスを利用するが負担額が大きければバスを利用しないで家族で送迎する、62%、わからない、14%。このように当然、利用料金の課題もありますが、園児バスの送迎時間の関係において、保護者の方から保育時間について不満などはないのでしょうか、お伺いします。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 園児バスにつきましては、児童センターは自由来館型でございます。したがって、保護者のご都合によって8時半から5時まで利用できる、また送迎をできない保護者については、あるいは園児バスを利用することによって送り迎えしていただけるような、要は園児バスの停留所ですかね、集合場所に送り迎えできるような保護者家庭については、市のほうで園児バスを委託して、運営は保護者で構成する父母の会で自主的に決めておられるということで、したがって、利用者からの声としてはそのアンケートのとおりでございますが、園児バスについては基本的には保護者の方たちで何時からどういうふうにコースをつくって運行するというを決めていただいているというふうに伺っておりますので、そこについては保護者の皆様から、私は直接改善してほしいとか、あるいは子育て支援課のほうにも園のほうにも、そういった直接的な苦情はないというふうに聞いております。

○佐々木謙二委員長 12番、渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 自主的に保護者会としてバス運行、いろんな運営をやっておられるというふうに理解しています。行政のサポートをしっかり果たしていただきたい。

バスについて関連しますが、バスの更新について、これもご要望があったことと思います。

5月30日の児童センターの運営に関する打合会で要望があったことや、8月17日の児童センター運営委員会において市長は、バスの更新について前向きな発言をなされているようですが、その方向性、具現性について所見を伺いたいと思います。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

バスの運行につきましては、一般質問でもお答え申し上げましたけれども、園児も減っておりますが利用者が減ってるということから、市のほうで委託料として大体平均で110万円から120万円ほど各園のほうに支援しております。しかし、利用者が少なくなって、なかなか園によって、例えば伊佐沢がどのぐらいだと、西根はこのぐらいだとか、かなり差が出てきているようでございます。そんなことで保護者会のほうにこちらから申し入れをして、ぜひ新しいバスの運行方法について協議していただきたいということで提案をしておりました。

それは、ちょっと不便かもしれませんが、ある程度バスを集約して、運転手さんなんかもスクールバスのような形で入札によって市内の業者さんをお願いする、そういったことでコストを下げる、バスもある程度大きいバスを何台か用意して、それは常時、日中の行事でも使えるような形をして、少しでも保護者負担を少なくできる方法があるので、そういったことで検討いただけないかということをお願いしてたんですが、改めてこの8月の児童センターの運営協議会の中で、それは難しいというお答えをいただきましたので、それはじゃあ当面しないと。そういったことから、少し年次計画で新しいバスは西根と平野だけなんです。致芳と伊佐沢と豊田は非常に古いバスなので、そういった結論が出た以上は速やかに予算化して、新しいバスで少しでも快適に安全にということで、来年度から実施していくように努力したいと思

ってるところです。

○佐々木謙二委員長 12番、渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 はい、わかりました。

午後 3時01分 休憩

前向きなご回答をいただきまして。

午後 3時20分 再開

先ほど延長保育の目的で触れたように、保護者の中には身近なところで子育てが可能であり、地域とのつながりやコミュニティが深められ、保護者のニーズにこたえる施策として歓迎されることであります。ついては、入所手続などの事務的な理由もあったでしょうが、なぜ9月定例会に延長保育を実施するための条例改正案を上程しなければならなかったのか、その辺についてお伺いします。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

先ほどの小関秀一委員のご質問でも、なぜ補正でということがございました。今回の延長保育の実施につきましては、昨年の10月から11月中旬まで、毎年園児の募集はその時期にするものでございます。それで予定の半分ぐらいしか最初、申し込みございませんでした。しかし、間際になると大分戻ってくるんじゃないかという想定のもとに新年度スタートしたわけですが、結果として大幅な児童センターの定員割れが生じてしまいました。

すぐにアンケートを実施して、そういった延長保育とか給食の要望が非常に強いということから、来年度の募集に向けて今度の3月定例会では間に合いません。実は10月の下旬、中旬ぐらいから募集を開始して11月の下旬で締め切るというような手続ですので、したがって、来年度から延長保育をすればしたら今回の9月定例会でご承認を賜らないと、そういった形での園児の募集ができないということで、9月定例会に上程させていただいたところでございます。

○佐々木謙二委員長 ここで暫時休憩いたします。

再開は3時20分といたします。

○佐々木謙二委員長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

渋谷佐輔委員の質疑を続行いたします。

12番、渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 次に、よりよい児童センターの運営についてであります。

児童センターの運営については、とりわけ延長保育、2歳児保育、園児バス、給食あるいは指定管理者制度についての要望や提言が届けられてると思います。その中で、給食の提供について先般、梅津善之委員も触れられておられますが、過日、西根児童センター保護者会の小野会長とお話しする機会があり、西根児童センターの実情もお聞きしました。大変喜ばれているようではありますが、集金等の保護者会の苦労もあるようであります。

引用させていただきますが、先ほどのアンケート、給食を利用したいですか。西根以外の方から回答です。利用したい、54%、弁当のままでよい、13%、回数は別にして給食と弁当の併用がよい、29%、わからない、4%。このように、改めて給食についての見解とよりよい児童センター運営に向けての取り組みについて、市長のご所見を伺いたい。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

延長保育と関連して、児童センターの給食についても、これは保護者の要望が非常に強いということで前向きに検討してるところでございます。やはり延長保育とともに、忙しい時間帯の中で次の日の子どもの弁当のおかずを購入して、そして朝の出勤前の忙しい時間帯に真心込

めて弁当をつくるというのは非常に親子の触れ合いといいますか、愛情をたっぷり注いだ弁当というのは本来は望むべき姿ではございますけれども、全部とはいかないまでも、ぜひ児童センターの給食も検討しなきゃいけないというふうに思っています。

具体的には、当初、学校調理場で、300食弱ぐらいですからできないかということで検討したんですが、残念ながら大規模改造を一昨年した際に、もう目いっぱい改造だったと、余裕がないということから、違う施設を利用して、場合によっては12月補正でまたお願いをして、調理場のしっかりとした機能を整備しなきゃいけないということもしながら、ぜひ来年の4月から、保護者の皆さんと相談して、月曜日から金曜日フルではないとしても、できる限り給食を提供できるような体制を設けていくように検討してまいりたいと思ってるところでございます。

+ ○佐々木謙二委員長 12番、渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 アンケートの中に漏れましたが、児童センターに入園しない理由について、未就園児のみアンケートに答えていただいています。それを見ますと、給食がないから児童センターに入園しないという人が52%、勤め先に近いところか通勤途中にほかの保育施設がある、16%、兄や姉が入園してるから、16%、家庭で見ることができる、8%、その他、24%。こういうことで、やっぱり給食のニーズというのは高いと思われます。

そういう意味で、西根児童センターでも前例として取り組んでいるわけでございますので、いろいろその辺も参考にしながら、ぜひ前向きに給食に取り組んでいただきたいと思っております。

次に、致芳児童センターに指定管理者制度を導入されたわけですが、まだ半ばとはいえ、保護者からの反響や問題点について見えてきた部

分がございましたら、それを伺いたいと思います。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 8月に先ほど申し上げましたように児童センター運営委員会の中で、致芳児童センターのお母さんのほうから次のようなお話をいただきました。

「致芳は指定管理者に移行しているが、移行したからといってがらりと変わるわけではない。それまでの保育行事も例年どおりで、保育の内容、方針も同じで戸惑うことはなかった。一番変わったのは2歳児保育と延長保育。致芳以外にも入所してるので、児童センター入所児童減少の歯どめになっているのではないかと。保護者と先生方のコミュニケーションもうまくとれている。悪くなった点は、余り思い浮かばない」というようなご意見をいただきました。

このように父母の皆様には、この指定管理者制度について、まずは一定程度評価をいただいているというふう実感したところでございます。

○佐々木謙二委員長 渋谷佐輔委員に申し上げますが、通告に従って通告の内容で質問していただくようお願いしたいと思います。

12番、渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 通告の内容と関連すると思っ質問させていただいてますので、ご理解をいただければ。

○佐々木謙二委員長 通告に従って質問してください。

○12番 渋谷佐輔委員 この件については、もう終わりです。

次に、幼保一元化の推移についてでございます。これもございませんか。延長保育と関係があると思っております。

○佐々木謙二委員長 従って質問してください。

○12番 渋谷佐輔委員 はい。この件についてご質問します。

国のほうでは幼保一元化施設の推進ねらいということで、子ども庁を創設しようと検討されております。政府の動きについて、市長はどのようにお考えになりますか。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 延長保育というのは、児童センターを保育園の機能をぜひ持ってほしいということだというふうに理解しております。そういった意味で、国のほうの幼保一元化については、私も関心を持って注視してるわけですけども、中間取りまとめによりますと、幼保一体化とは給付のシステムを一体化し、保育園の国からの給付あるいは幼稚園の給付ということだと思いますが、保育園、幼稚園総合施設をこども園として指定いたしまして、こども園給付を行うというふうに国のほうでは構想してるようでございます。

なお、児童センターの取り扱いでございますけれども、過日説明会がございまして、その中では、残念ながら児童センターのこども園指定は研究課題だが難しいというようなお話はいただいております。児童センターには保育に欠ける子、欠けない子が入所してございまして、幼稚園と保育園双方の機能をあわせ持つこども園が理想的な運営形態だと私ども市としても考えております。将来、子ども・子育て新システムが創設された場合は、こども園の指定を受けることができるよう整備していく必要があると考えております。

新システムの主な内容といたしましては、保育の量的拡充、ゼロ歳から2歳児の保育の強化、幼保一体化として質の高い教育と保育の実現などで、本格実施の目標年度は2010年代中ごろ、2015年あたりを目標にしてるようでございます。追加が必要とされる予算は約1兆円と言われてございまして、財源は恒久財源でないこれはだめだろうということで、恐らく引き上げられるであろう消費税をこれに充てるということから

財源確保が大前提であり、現状ではなかなか難しい部分もあるのかなというふうに見てるところでございます。以上です。

○佐々木謙二委員長 12番、渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 ありがとうございます。るるご答弁をいただき、ありがとうございます。

お話のように、国の施策の方向性あるいは足元からの保護者のニーズの両にらみでよりよい施策の実行、実践、実現に向けて、精励あるのみであると思います。

最後に、私たち昨年11月、先日の台風12号で大変な災害に遭遇しているであろう和歌山県白浜町を訪問し、研修いたしました。なぜ白浜町だったのか、それは幼保一元化について先進的に取り組んでおられる実情を研修する目的でした。取り組みの経過や背景については割愛させていただきますが、そこでかいま見たのは徹底した対面主義でした。送迎時の保護者と職員の疎通は子供の成長を推しはかるバロメーターとなり、建物の構造も開放的で、だれも見届けできる環境、そして問題視される利用料金の収納率向上に結びつくなどであります。

幼稚園は文科省、保育所は厚労省など縦割り行政で権益保持でしのぎを削っているようにしか見えませんが、子供たちや保護者にとっては安心して生活の一部を保育所という環境で過ごせるかという行政の役割が求められていると思います。長井市の将来を担う子供たちは、子供は地域の宝とか、磨けば光るダイヤモンドの原石などと言われる貴重な存在です。健やかな成長を支えていきたいと願いながら質問を終わります。ありがとうございました。

○佐々木謙二委員長 以上で通告による総括質疑は終わりました。

これより各会計補正予算案の細部審査に入ります。

なお、質疑に当たっては、答弁者並びにペー